

領域健康に関する調査の集計結果（2021年版）

The Collected Results from a Survey on the Field “Health” (2021)

松澤 俊行

1. はじめに

筆者は、2020年に幼児教育の領域の一つである「健康」の内容に対する浜松学院大学短期大学部（以下、本学）学生の意識を問う調査を行い、その集計結果を本学研究論集第18号上で公表した（松澤,2021）。本稿では、上記調査の1年後に実施した調査の集計結果を提示する。

2. 研究の目的と方法

筆者は2018年と2019年に、教育実習後の本学学生に「領域健康の内容の内、大切にしたい項目」を問う調査を実施した。2020年は、コロナ禍の影響で教育実習が延期されたこともあり、同様の調査を実習前に実施することとなった。そのため、調査結果を公表する際、次の点を「今後の課題」として挙げた。

「2021年度以降は、同じ学生に対して実習前に2020年度と同様の課題の提出を求め、実習後に2018年・2019年と同様の課題の提出を求めることも考えたい。それらの回答の集計と分析によって、実習の前と後で本学学生の領域健康の内容10項目へのとらえ方がどう変化していくかを明確にできる可能性がある。また、実習前に内容10項目を強く意識させる機会を持つことが実習中の学びを深めることへつながり、さらに実習後の振り返りの機会を設定することがその深まりを自覚させることへつながる可能性も考えられる」（松澤,2021）

この考察を受け、2021年度は本学2年生に対し、教育実習（期間：2021年5月31日～6月18日）の前と後に、それぞれ下記の質問をし、回答の提出を求めた。（両質問とも原文のまま転載する。）

教育実習前の質問：

領域健康の内容10項目の内、実習（等、今後の子どもとの関わりの中）で実践的な指導法を学びたい項目を3つ選んでください。

教育実習後の質問：

幼稚園教育要領に記される「領域健康」の内容10項目の内、自分がプロの保育者、あるいは子どもの保護者になった時に特に大切にしたい項目を3つ挙げ、それぞれなぜ大切にしたいか理由を記せ。

先の「今後の課題」の記述に沿って「実習前に2020年度と同様の課題の提出を求め、実習後に2018年・2019年と同様の課題の提出を求める」のであれば、同じ文面の質問をすることになるが、実習前の質問は新たに設定し、実習後の質問と異なる文面にした。新たな質問も、

領域健康の内容 10 項目から 3 項目の選択を求めており、各学生の領域健康に関する活動への興味と意欲を問うものとなっている。

本研究では、上記の調査の結果を集計し、考察を加えていく。2020 年の調査結果を集計した研究と同様、本学の学生たちが保育・幼児教育で何を大切にしようとしているかを読み取り、授業方法の改善に活かすことを目的に進める。調査結果から学生の志向や理解度を把握すれば、より効果的な授業構成を立案でき、授業中に提供する情報や教材もよりの確なものにできるはずである。

なお、両調査とも「健康（指導法）」の授業の中で実施した。実習前の質問への回答は、グーグル社によるアンケートフォーム作成サービス（いわゆる Google フォーム）を利用したインターネットアンケートで、「過去の実習の事例紹介」をテーマとした授業の感想と共に提出を求めた。提出は 2021 年 5 月 21 日から受け付けた。実習後の質問への回答は、「保育に関するエッセイを読む」をテーマとした授業で、エッセイの読解や実習中の体験報告を行う課題と共に、紙での提出を求めた。提出は 2021 年 6 月 22 日から受け付けた。

両課題とも提出を必須としたが、本稿を前期授業終了以前に執筆している関係上、未提出者がいる段階で集計した。そのため、両調査の回答者数に差異が見られる。また、一部の学生は諸事情から教育実習を行わずに質問への回答をしている。その学生の回答には実習を経ての変化は表れないこととなるが、集計対象から除外はせず、教育実習を終えた学生と同様に扱った。

3. 集計結果

以下、集計結果を記していく。

表 1 には、それぞれの項目を選択した学生の数（回答者数）と、全回答者中に占める割合、回答数の順位を示している。

次の表 2 は、2020 年度の調査の集計結果で示した表（松澤,2021 参照）と表 1 を一つにまとめた表である。この表には、学年の違いによる興味や意欲の対象の違いが表れている可能性がある。ただし、「2021 年実習前調査」と「2020 年調査」はいずれも実習前に実施した調査であるものの、前章に記したように質問文は変更されているため、「2021 年実習後調査」と「2019 年調査」ほど単純に比較はできない。また、2019 年調査は、2018 年度の 2 年生の回答と 2019 年度の 2 年生の回答を合算して集計したため、「2021 年実習後調査」と「2019 年調査」の比較は、1 学年分の回答と 2 学年分の回答で傾向を比べることになる。「2019 年調査」の合算前の数値は参考文献（松澤,2019）を参照すれば確認できる。

さらに、同じ学生が実習前後で同じ項目を選択する割合を確認したいと考え、表 3 を作成した。この表には、同じ学生が実習前に選んだ 3 項目と実習後に選んだ 3 項目の内、いくつの項目が一致したか、項目数ごとの該当者数を示している。「同じ者が実習前にも実習後にも選択した項目の数」であるから、最大で 3 項目、最小で 0 項目である。

加えて、各項目について「実習前にも実習後にも選択した者の数」を表 4 に示している。この表には、「実習前に各項目を選択した者の内、実習後も選択した者の割合（継続者割合 1）」と「実習後に各項目を選択した者の内、実習前にも選択していた者の割合（継続者割合 2）」、そして「実習前か実習後の少なくともどちらかで各項目を選択した者の内、実習前にも実習後にもその項目を選択した者の割合（継続者割合 3）」も記載した。

表 4 の後には、参考資料として幼稚園教育要領に記載される「領域健康の内容 10 項目」を示した。

表 1：2021 年度の実習前の調査と実習後の調査の集計結果

項目	実習前の調査（回答者 94 名）			実習後の調査（回答者 114 名）		
	回答者数	割合	順位	回答者数	割合	順位
1	45 名	48%	2 位	53 名	46%	1 位
2	36 名	38%	4 位	40 名	35%	5 位
3	16 名	17%	7 位	25 名	22%	7 位
4	52 名	55%	1 位	49 名	43%	3 位
5	12 名	13%	9 位	33 名	29%	6 位
6	11 名	12%	10 位	22 名	19%	8 位
7	21 名	22%	6 位	43 名	38%	4 位
8	39 名	41%	3 位	15 名	13%	9 位
9	14 名	15%	8 位	11 名	10%	10 位
10	26 名	28%	5 位	51 名	45%	2 位

表 2：2021 年度調査とそれ以前の調査の比較

項目	実習前の調査						実習後の調査					
	2021 年実習前調査			2020 年調査			2021 年実習後調査			2019 年調査		
	回答	割合	順位	回答	割合	順位	回答	割合	順位	回答	割合	順位
1	45 名	48%	2 位	44 名	39%	2 位	53 名	46%	1 位	54 名	22%	8 位
2	36 名	38%	4 位	38 名	34%	4 位	40 名	35%	5 位	97 名	39%	1 位
3	16 名	17%	7 位	35 名	31%	6 位	25 名	22%	7 位	75 名	31%	3 位
4	52 名	55%	1 位	30 名	27%	7 位	49 名	43%	3 位	76 名	31%	2 位
5	12 名	13%	9 位	44 名	39%	2 位	33 名	29%	6 位	61 名	25%	6 位
6	11 名	12%	10 位	36 名	32%	5 位	22 名	19%	8 位	23 名	9%	9 位
7	21 名	22%	6 位	30 名	27%	7 位	43 名	38%	4 位	65 名	26%	4 位
8	39 名	41%	3 位	7 名	6%	10 位	15 名	13%	9 位	18 名	7%	10 位
9	14 名	15%	8 位	12 名	11%	9 位	11 名	10%	10 位	64 名	26%	5 位
10	26 名	28%	5 位	60 名	53%	1 位	51 名	45%	2 位	35 名	23%	7 位

表 3：実習前後の選択項目の一致数ごとの人数と割合

一致項目数	3 項目一致	2 項目一致	1 項目一致	0 項目一致
該当人数（割合）	3 名（3%）	28 名（30%）	43 名（47%）	18 名（20%）

両調査回答者（92 名）の平均一致項目数は 1.2 項目

表 4：両調査回答者（92 名）中で各項目を実習前にも実習後にも選択した者の人数と割合

項目	人数	継続者割合 1 (両方/実習前)	継続者割合 2 (両方/実習後)	継続者割合 3 (両方/どちらか)
1	23 名	51% (23/45)	52% (23/44)	35% (23/66)
2	13 名	36% (13/36)	38% (13/34)	23% (13/57)
3	6 名	38% (6/16)	32% (6/19)	21% (6/29)
4	23 名	46% (23/50)	62% (23/37)	36% (23/64)
5	5 名	42% (5/12)	18% (5/28)	14% (5/35)
6	1 名	10% (1/10)	7% (1/15)	4% (1/24)
7	13 名	65% (13/20)	39% (13/33)	33% (13/40)
8	7 名	18% (7/39)	64% (7/11)	16% (7/43)
9	3 名	21% (3/14)	33% (3/9)	15% (3/20)
10	14 名	58% (14/24)	30% (14/46)	25% (14/56)

参考：領域健康の内容 10 項目（幼稚園教育要領より）

1	先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。
2	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
3	進んで戸外で遊ぶ。
4	様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。
5	先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心を持つ。
6	健康な生活のリズムを身に付ける。
7	身の回りを清潔にし、衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動を自分でする。
8	幼稚園における生活の仕方を知り、自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。
9	自分の健康に関心をもち、病気の予防などに必要な活動を進んで行う。
10	危険な場所、危険な遊び方、災害時などの行動の仕方が分かり、安全に気を付けて行動する。

4. 考察

ここでは、前章で示した集計結果を読み取り、考察を加える。

表 1 からは、それぞれの項目がどのぐらい学生の意識に強く訴えかけているかが読み取れる。項目 1 や項目 4 は、実習前にも実習後にも多くの学生に選択されている。これらは、「先生や友達との触れ合い」「様々な活動を楽しむ」といった生活全般を覆う内容の項目である。項目 6 や項目 9 は、実習前も実習後も選択する学生は少数である。「生活のリズム」「病気の予防」に関する項目であるが、園での集団生活だけではなく家庭での生活でも常に重要な内容であるため、保育者として特別な使命感を感じにくいからだろうか。実習前から実習後に大きく順位が下がったのは項目 8 であった。これも文中に「自分たちで」「見通しをもって」とあるため、「任せれば良い」という気持ちになるのかもしれない。

表 2 を見ると、上記の特徴は現在の学生と過去の学生に必ずしも共通しているわけではない

ようにも感じられる。継続的な調査と考察が必要である。

表3によって実習前と実習後の選択が一致する率は高いわけではないことも分かる。実習前の目的意識も、いざ実習が始まるとすぐに忘れられてしまうということだろうか。

表4の割合1が高いほど、実習前の興味や意欲が持続しやすい内容で、逆にこの数字が低い項目ほど忘れられやすいとも考えられる。分母（実習後の選択者数）が多いために割合2が低い項目は、実習を通じて新たに興味を掻き立てられやすい内容を含んでいる、と見ることもできる。「食べること」「食べ物」に関する項目5や、「安全」に関する項目10が該当する。これらは確かに実習中に毎日指導の実践例を見ることができ、意識が高まりやすい内容を含んだ項目であろう。

以上、今回の調査の集計結果に対する考察を述べたが、先入観含みの印象の域を出ていない可能性もある。授業の改善と今後の調査立案に向けて、さらに分析を深めたい。

5. 今後の課題

前章で「実習前と実習後の選択が一致する率は高いわけではない」と述べた。実習前の調査は、インターネットのアンケートシステムを利用しており、回答者にもメールで本人の回答が届くように設定していた。とはいえ、実習直前や実習期間中に自らの回答を再度確認して実習に臨んだ者はいないだろう。また、実習後の調査へ回答する際も、実習前に自身がどう回答したかを確認するように求めてはいない。それぞれの調査の独立性が高く、また調査への回答が行動を規定する度合いは低いだろう。

しかし、学生の資質向上を優先するのであれば、回答が行動により強い影響を与える調査であっても構わないのかもしれない。質問文の工夫や回答の提出方法、記述内容の保持方法など調査の進め方全般を見直し、実習前、実習中、実習後の興味や意欲が分断されないよう「誘導」を行えば、学生が一層目的意識や向上心、達成感や充実感を持ちやすく、力を付けやすくなる可能性も考えられる。

その可能性を念頭に、2022年度の調査の計画に着手したい。

6. おわりに

2018年以降、領域健康の内容に対する学生の意識を探る継続的な調査を行うことで見えてきたものがある。歩みは遅々としているが、学生の実践力・指導力向上、それに先立つ実習の目的意識の喚起につながる授業のヒントが得られていると実感できる。引き続き、領域健康の重要性を意識でき、個々の内容への理解が深まる授業構成を追求したい。

付記

過去の調査時同様、本学の学生たちの回答は、筆者に新たな発見と静かな興奮を与えてくれた。彼ら、彼女らにこの場を借りて感謝の意を表したい。

参考文献

松澤俊行「領域健康の教育実態に関する研究」 浜松学院大学短期大学部研究論集第16号, 2019年, pp39-46

松澤俊行「領域健康に関する調査の集計結果」 浜松学院大学短期大学部研究論集第 18
号, 2021 年, pp45-49
幼稚園教育要領（文部科学省 平成 29 年 3 月告示）